

私は1997年から2001年まで、山崎瞳先生、ニコライ・ドミトリエフ先生ご夫妻のロシア語講座で学ぶ幸運に恵まれました。(残念ながら、ご夫妻の東京転任のために、そのロシア語講座はなくなってしまいました。)以下は、ロシア語検定1級を取った翌年1999年の「ロシア文化に親しむつどい」で私の検定準備法について、話させていただいた内容です。

私のロシア語学習歴、ロシア語検定の準備として何をしたか、検定を受けて思ったこと、そして最後に、検定に限らず、ロシア語を勉強して思ったことを順にお話ししたいと思います。

#### ロシア語学習歴

東京にいたときは、週1回のロシア語クラスで6年間勉強しました。そのクラスではポターポヴァの教科書全3巻(1950年代の古い本です。文法、読み物、練習問題からなっています。)を終えてから、作文を少しとアルセーニエフの「パ・ウスリースカム・クラージェ」(映画「デルス・ウザーラ」の原作)を100ページほど読みました。その後10年間のロシア語のブランクの後、松本に来て、97年5月から、日本ユーラシア協会(注1。)の山崎先生、ニコライ先生のロシア語講座に参加させていただいています。97年秋に検定2級、98年秋に1級を受けました。

#### 検定の準備

まず、何といっても過去の問題の勉強だと思えます。いろいろな試験を受けてきて、さらに、いま大学で教える(テストをする)立場に立つて思うのは「最重要事項は繰り返し出る」ということです。

大学院の入試を受けようとしている学生にはいつも、次のように言っています:「過去に一度試験に出たからもう出ない」なんてことはありません。出題側は、これだけは必ず知っていてほしい、と言うことを手を変え品を変え、繰り返し出すものです。だから、過去問を徹底的に勉強するのが一番の近道です。最初、過去問をやっても全然できないかもしれないけれど、それでいいんです。それによって、自分が今いる位置と、これから到達すべき高さが分かるのですから。少しでも早く、過去問1回分をやってみることを勧めます。

ロシア語検定も同じだと思います。私も過去の問題を集めて、それをやってみたのですが、1級の筆記(文法)は夏前には50%を割る出来でした(合格ラインは60%)。

##### ・文法

2級を受けるときは過去に使ったポターポヴァの教科書(これしか持っていないので)で文法の復習をしました。「完了体、不完了体、形動詞、副動詞が必ず出る」という山崎先生のアドバイスに従って、これらの事項を中心に復習しました(本当にしっかり出ました!)

1級は完了体、不完了体の更に細かい使い分けの理解が必要です。ポターポヴァの教科書にはそこまで載っていなかったもので、山崎先生から頂いた、完了体、不完了体のプリントが大変助けになりました(注2。)

##### ・聞き取り

私にとって一番の苦手は聞き取りでした。単に聞き取れないだけでなく、上がると頭の中が真っ白になってしまうタイプです。手元にあった6ヶ月分のNHKラジオ講座のロシア語のテープ(入門編と応用編)を繰り返し聞きましたが、これは会話的表現をいくつか覚えるほかにはあまり役にたちませんでした。というのは、すでに内容を知っているロシ

ア語を聞いても、それをすでに頭の中にできあがっている、日本語の音の枠でとらえてしまうからです。

1級を受ける3ヶ月ほど前から、日本ユーラシア協会の通信添削ヒアリング講座を始めました。もっと早くから始めていれば良かったと思いました。内容をまだ知らないロシア語のテープを聞いて書き取るとはヒアリングの一番良い訓練だと思います。文字では馴染みの単語の列が、本当はこんな風に聞こえるのか、と驚きの連続でした。いきなり音から理解しようとするので、日本語の音の枠を少しはロシア語の枠に修正できたのではないかと思います。ロシア語の音は英語と比べると聞き取りやすいと思います（ロシア語だと、多少慣れてくると、場合によっては聞こえたとおりにカタカナで書いてみることもできますが、英語だと、聞き取れないものはどうしようもない！）

それとともに、ヒアリングでは単語力が不可欠だと身にしみて思いました。音は聞き取れても（カタカナで書けても）知らない単語ばかりでは意味はとれません。

#### ・作文

私はロシアに何人かいるペンフレンドに手紙を書いたのが唯一の練習ですが、手紙だと、自分が書ける範囲のロシア語しか使わず、あまり新しい表現も覚えませんし、自分の書いた文が正しいか、不自然でないか、なども分かりません。露作文の良い教科書がないのが残念です。

#### ・口頭作文

2級も1級もスピーチはいくつか題を予想して用意していきました（2級は7つ、1級は5つ。1級のときはニコライ先生に添削して頂きました。）その場で即席スピーチをするなんてことは、私のロシア語力からはとんでもないことです。

### 後悔したこと

#### ・聞き取り対策

聞き取りの試験は、テープを3回続けて聞いた後、10分くらい答案を書く時間がありますが、余って困りました。できてしまったという意味でなく、聞き取れず、メモすらできていないものはいくら時間があってもどうしようもない、と言うことです。せめて、意味は全然分からなくてもカタカナで書き取っておけば、後でじっくり考えたら少しは分かったかもしれない、と後悔しました。3回聞く間にどのくらいメモするか、1回目から書くか、それとも1回目は聞くことに専念するか、意味が分からなくてもとにかく音を書き取るかなどは前もって自分にとって一番良い方法を探しておくとも良いかもしれません。本番と同じ条件で何度も練習をしておけば良かったと思いました（それにしても、3回「続けて」聞くのでなく、2回目と3回目の間に、5分くらい入れてくれるといいのですが。そうすれば、考えてから書き直すことができます。）

#### ・単語力のなさ

1級の本番で、文法の問題も成績が悪かったのですが、これも単語力が深く関係しています。動詞の完了体と完了体の適切な方を文章中のかっこに入れよと言われても、その動詞の意味が見当がつかないのでは手が出ません（注3）

### 私にとって大きかったこと

仕事が忙しいので、2級を受けたすぐ次の年に1級を受けるなんて無理だと思っていたのですが、「それなら早くから準備を始めればよいじゃない」と山崎先生がおっしゃって下

さったので、決心ができました。たしかに、ごもっても、4月から少しずつ準備をしていきました。山崎先生の励まし、本当に私にとって大きかったですよ。

複雑さは自由度である

ロシア語って文法で苦労しますね。ロシア語をやって最初にうんざりさせるものは、名詞と形容詞の格変化(なにも、固有名詞まで変化することないじゃない!)、そして動詞の人称、性に応じた変化ではないでしょうか。

でもそのおかげで、どんなに複雑に絡み合い、どんな順に並んでいようと、まず動詞を見つければ、それとの性数の一致と、格を見れば、どれが主語かわかり、どれが動作の対象で、どれが手段を表すか、どの形容詞がどれを修飾しているかがはっきり分かるのです。よくできてるなあ、と感心しました。ロシア語は格変化のおかげで、語順は自由です。

ロシア語は同じ単語を使っている、語順によってどれを強調したいかを表すことができます。語順がだいたい決まっている英語や日本語はないワザです。

逆に、日本語を例に取れば、おそらく外国人が一番苦労するのは敬語だと思うのですが、そのおかげで、同じ内容を言うのでも、相手をちょっと嬉しい気持ちにさせたり、不愉快な思いをさせたり、英語にはない自由さが生じます。

「複雑さは自由度である」といったのはそういう意味なのです。

最後に一言

日本ユーラシア協会のロシア語講座は松本に来て、一番良かったと思うことの一つです。(他の例は、西に見える北アルプスの山々です。山のない横浜で育ったので。)

2003年注

注1. 日本ユーラシア協会は東京、横浜、名古屋...などいろいろな都市に支部を持っています。

注2. 完了体・不完了体の使い分けの解説も含む中級向けの文法書も出版されています。例えば、城田俊著「現代ロシア語文法、中・上級編」東洋書店。

注3. 語彙を増やす一つの効果的な方法は、「自分の好きな」ジャンルの本をロシア語で読むことだと思います(日本語で楽しんで読める分野でないと、外国語でなんて読みつづられませんか。かつてロシア語の子供向けの小説を買ってすぐ挫折しました。)

ソ連崩壊後「雨後のたけのこ」のように、ロシア人作家によるミステリが出版されています。ミステリの大ファンの私にとっては、とても嬉しいことです。ミステリの伝統のあるアメリカやイギリスと比べると、洗練はされてはいませんが、その泥臭さが面白さでもあります。現代ロシア事情がわかるという意味でも興味深いです。

大学的时候、ホーソンの「緋文字」を英語で読むクラスに入って、英語の「文学」とはこんなに難しいものか、とがっかりしました。20年英語のミステリを読んでから再挑戦したら「普通に」読めました。

ロシア語でもミステリばかり読んでいますが、ドストエフスキーの「白夜」を読んでみたら、いつのまにかそう苦もなく読めるようになっていました。これは、学生時代好きだった本で、文庫本の和訳でも100ページほどの小品です。

結局、ミステリだけでも、十分読解の訓練になると思います。

私がロシア語書籍を入手した場所

・ナウカ 東京都千代田区神田神保町1-34 03(5259)2711

・Librerie Feltrinelli イタリア、ミラノ(ミラノ在住の友人に教わった。)